

ECONOMY TOPICS

経済トピックス

2011.12.8

No.412



平成 23 年冬のボーナス調査

—レポートの概要—

- 平成 23 年冬のボーナス受給見込額は、平均で 37 万 9 千円となり、昨年冬の受給実績に比べ 8 千円下回った。一方、ボーナス希望額は平均で 51 万 9 千円となった。なお、今冬のボーナスの伸び(見込み)は「良くなる」と「悪くなる」とする割合がともに減少したものの、「悪くなる」の減少幅が「良くなる」を上回り、期待指数は上昇した。
- ボーナスの使途計画は、「消費」が 41.2%、「貯蓄」が 43.0%、「返済」が 15.8%の割合となり、前年同期に比べ「消費」が低下し、「貯蓄」、「返済」割合は上昇した。「貯蓄」の目的については、「特に目的はない、貯蓄していれば安心だから」の割合が最も高く、「老後の備え」、「教育」がこれに続き、前年同期調査と 2 位、3 位が入れ替わった。
- 最近の暮らし向き調査では、23 年夏に比べて暮らし向き指数が 1.6 ポイント低下した。「良くなった」とする割合が横バイとなり、「悪くなった」とする割合が減少した。しかしながら、「良くなった」とする割合は依然として低水準であり、全体としては暮らし向きの厳しさが続いている様子がうかがわれた。今後の暮らし向きについては「悪くなる」とする割合が上昇し、厳しさが増すものと予想される。
- 県内給与所得者の小遣いの平均額は、毎月が約 3 万 4,500 円、ボーナス時は約 5 万 2,300 円となった。最も小遣いが多かったのは毎月が 20 代男性、ボーナス時は 20 代女性であった。一方、最も少なかったのは毎月、ボーナス時ともに 40 代女性であった。
- この冬の御歳暮は、贈る「予定あり」が全体の 29.1%となった。「予定あり」の割合は、20 代では 1 割を下回ったが、年代が進むにつれて大幅に増加し、50 代では 56.5%となった。「予定あり」回答者の平均の贈答先数は 4.9 先、1 先当たりの平均金額は 4,490 円、御歳暮予算合計額は約 2 万 411 円となり、昨年調査に比べて贈答先数、平均金額、予算額とも減少した。

1. 平成23年冬のボーナス調査

(1) ボーナス受給見込額

——平均37万9千円、前年を8千円下回る——

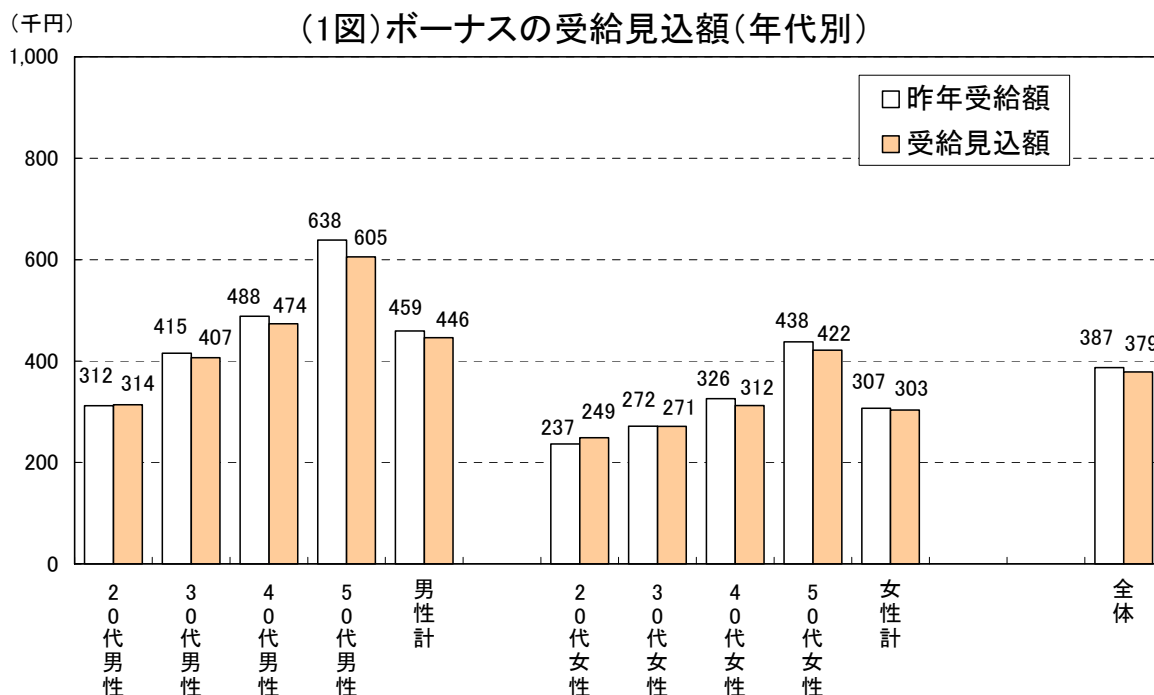
県内給与所得者が予想する今冬のボーナス受給見込額は、平均で37万9千円となり、回答者の昨年冬の受給実績(平均38万7千円)に比べ2.1%、8千円下回った。これを年代別・男女別に見ると、最も見込額が多かったのは50代男性の60万5千円、次いで40代男性の47万4千円、50代女性の42万2千円などの順となった。

男女別の平均見込額を比較すると、男性が44万6千円、女性は30万3千円となり、男性が女性より14万3千円多くなっている。

る。

なお、今冬の見込額と昨年冬の受給額との開きをみると、男女とも30代以上は昨年冬の受給額を下回るとしている。差額の大きい順に50代男性が3万3千円、50代女性が1万6千円、40代男性、40代女性がそれぞれ1万4千円、30代男性が8千円、30代女性が1千円となった。一方、20代は女性が1万2千円、男性が2千円、それぞれ昨年冬の受給額を上回るとしている。

(以上、1図参照)



次に、独身・既婚別の受給見込額を見ると、独身者が30万8千円、既婚者が41万6千円となった。昨年冬の受給実績と比べ

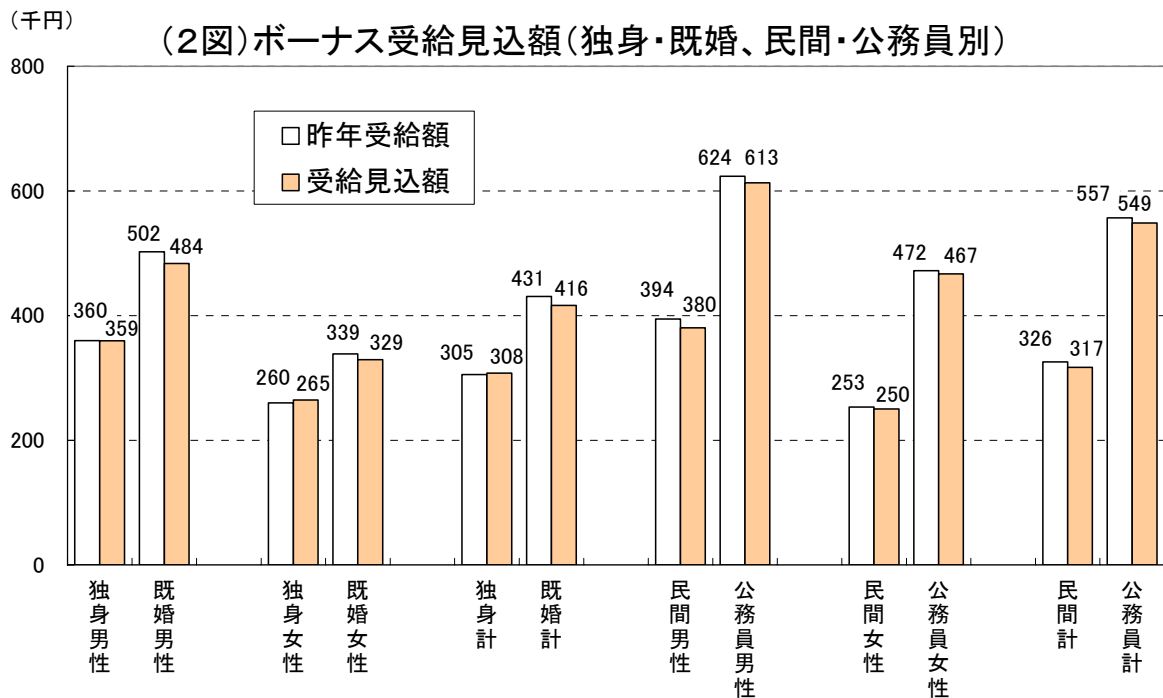
独身者が3千円上回るとしており、既婚者は1万5千円下回ると見込んでいる。また、民間・公務員別では、民間が31万7千円、

公務員が 54 万円 9 千円の見込みとなった。

昨年冬の受給実績と比べると、民間が 9 千円、公務員が 8 千円下回るとしている。男性は民間が 1 万 4 千円、公務員が 1 万 1 千円下回るとしており、女性は民間が 3 千円、公務員が 5 千円下回るとしている。

今冬のボーナス受給見込み額は昨年冬の受給実績に比べ、全体的には幾分下回る水準となった。各年代、属性別にみても、50 代男性で 3 万円以上の開きがあったものの、その他では 2 万円以下となり、全体に大きな開きはみられなかった。

(以上、2 図参照)



(2) ボーナスの希望額

——ボーナス希望額は平均 51 万 9 千円——

今冬のボーナス希望額は平均で 51 万 9 千円となり、平均受給見込額 37 万 9 千円との間に 14 万円の乖離を生じた。

年代別・男女別の平均希望額をみると、50 代男性が 76 万 5 千円でトップとなり、以下、40 代男性の 67 万 6 千円、50 代女性の 58 万 8 千円、30 代男性の 57 万 4 千円などと続いた。

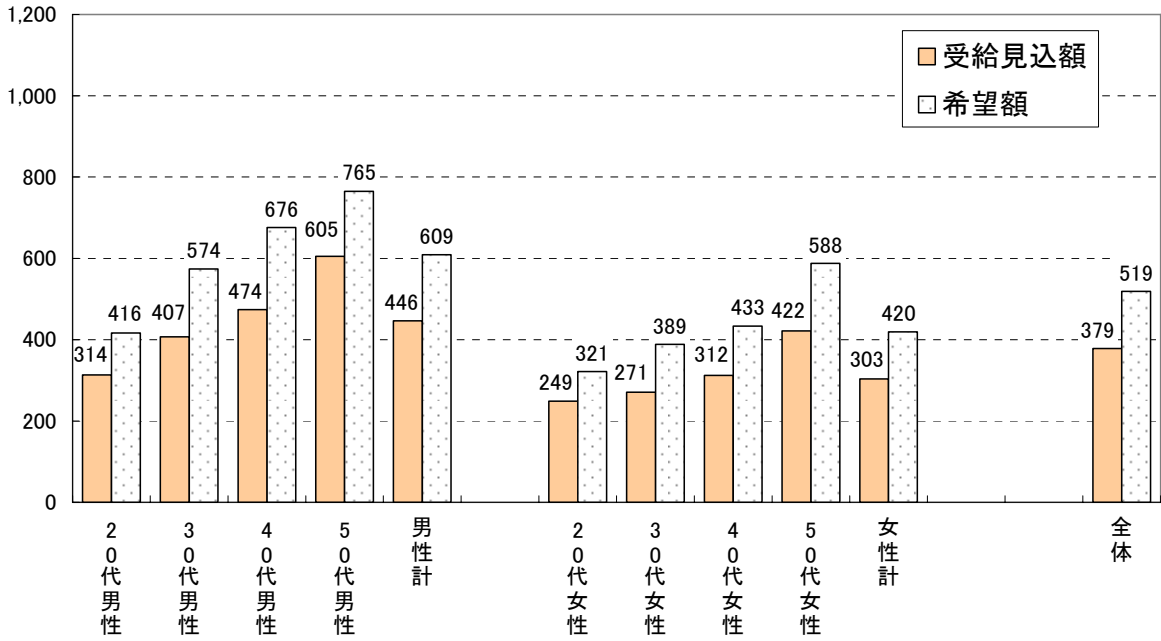
受給見込額と希望額との乖離幅を年代別にみると、40 代男性が 20 万 2 千円で最も大きく、次いで 30 代男性の 16 万 7 千円、

50 代女性の 16 万 6 千円、50 代男性の 16 万円などと続いた。乖離幅が最も小さかったのは 20 代女性の 7 万 2 千円であった。50 代を除き、各年代とも男性が女性に比べて見込額と希望額との乖離幅が大きかった。なお、独身・既婚別にみると、既婚者の乖離幅が独身者よりも大きかった。民間・公務員別でみると、男性は民間の乖離幅が公務員より大きかったが、女性はほぼ同じであった。

(以上、3、4 図参照)

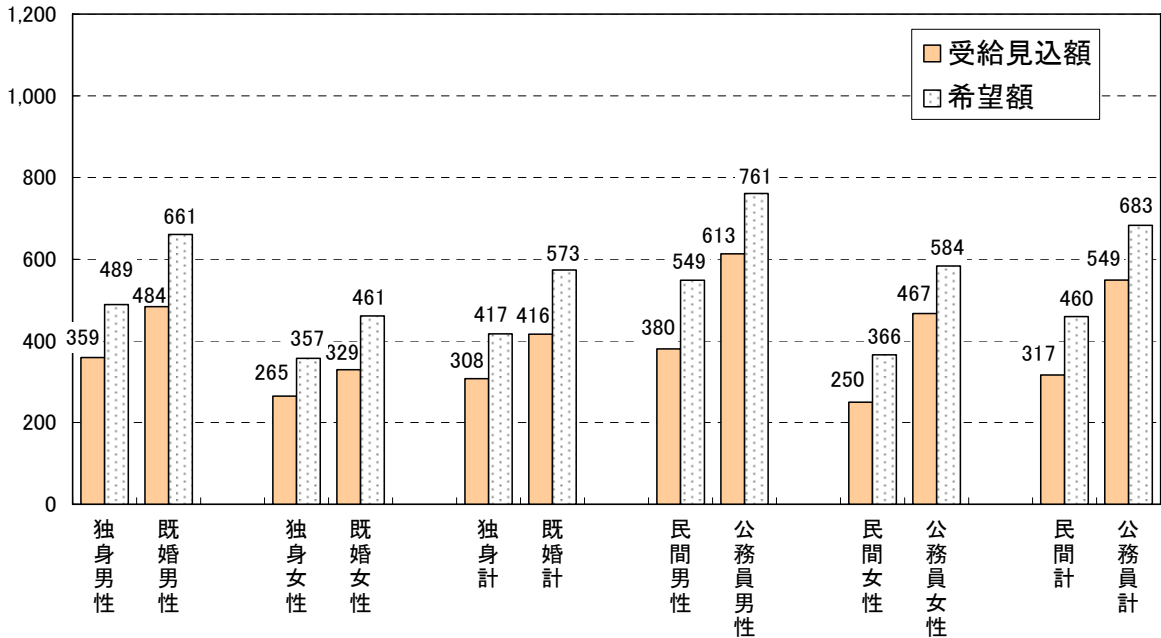
(千円)

(3図) ボーナス希望額(年代別)



(千円)

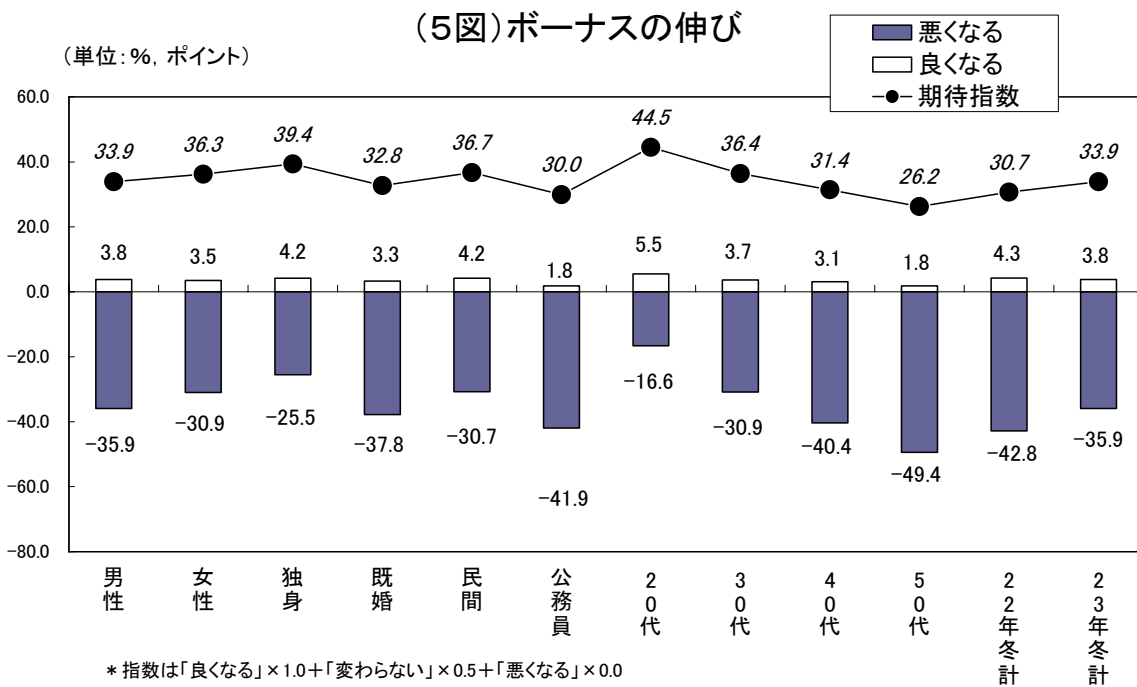
(4図) ボーナス希望額(独身・既婚別、民間・公務員別)



(3) ボーナスの伸びについて
 ——期待指数 3.2 ポイント上昇——

今冬のボーナスの伸びは前年同期に比べてどうなるかについて、「良くなる」、「悪くなる」、「変わらない」の三つの選択肢で回答してもらった。ボーナスの伸びが「良くなる」との回答は、22年冬に比べ0.5ポイント減少の3.8%、一方「悪くなる」は同6.9ポイント減少の35.9%となり、「変わらない」は同7.4ポイント増加の60.3%となった。この結果、ボーナスの伸びに対する期待指数(5図、注記参照)は33.9となり、前年同期に比べて3.2ポイント上昇した。

ボーナスの伸びに対しては、公務員は「悪くなる」とする割合が41.9%と昨年冬(73.4%)に比べ31.5ポイント減少し、期待指数も30.0と16.2ポイント上昇(昨年冬13.8)したことなどから、全体の期待指数は上昇がみられた。しかしながら、「良くなる」とする割合は20代のほかは5%以下にとどまったほか、「変わらない」とする割合が6割を占めており、全体としては厳しい状況が依然として続いていることがうかがわれる。
 (以上、5図参照)



(4) ボーナスの使途計画
 ——「消費」割合が低下、「貯蓄」、「返済」割合は上昇——

この冬のボーナスの使途計画は、「消費」が41.2%、「貯蓄」が43.0%、「返済」が15.8%の割合となった。前年同期と比べると、

「消費」割合が1.5ポイント低下した。一方、「貯蓄」割合は1.2ポイント、「返済」割合は0.3ポイントそれぞれ上昇した。

属性別にみると、男女別では、男性は「返済」割合、女性は「消費」割合が高かった。独身・既婚別では、独身者は「消費」、既婚者は「返済」割合が高か

った。民間・公務員別では、民間は「消費」割合が高く、公務員は「返済」割合が高かった。

(以上、1表参照)

(1表)ボーナスの使途計画

	消費割合					貯蓄割合	返済割合			
	買い物	レジャー	交際費	その他	自動車		住宅	その他		
男性	38.5	17.5	6.4	7.1	7.5	42.7	18.8	4.5	9.8	4.5
女性	44.2	20.5	6.8	7.0	9.9	43.4	12.4	4.1	4.4	3.9
独身者	42.0	20.2	6.4	9.1	6.3	45.3	12.7	5.7	1.1	5.9
既婚者	40.9	18.3	6.8	5.9	9.9	41.8	17.3	3.5	10.5	3.3
民間	42.9	20.3	7.1	7.4	8.1	42.9	14.2	4.0	6.5	3.7
公務員	36.6	15.1	5.4	5.9	10.2	43.4	20.0	5.0	9.0	6.0
23年冬計	41.2	18.9	6.6	7.0	8.7	43.0	15.8	4.3	7.2	4.3
22年冬計	42.7	21.0	7.1	6.7	7.9	41.8	15.5	4.7	7.1	3.7
21年冬計	38.1	17.8	6.3	6.0	8.0	42.8	19.1	4.3	9.9	4.9

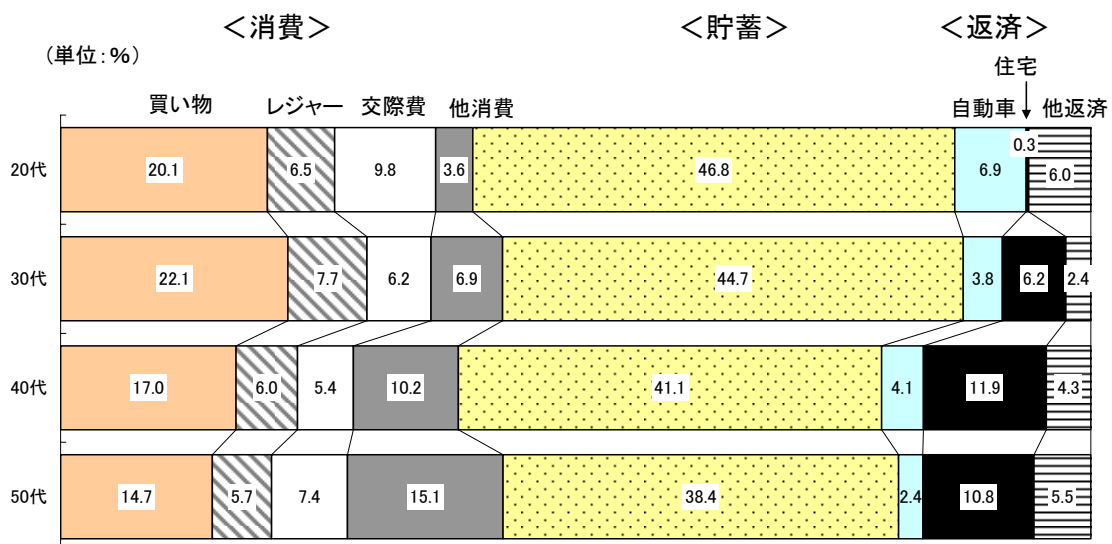
(単位:%)

年代別にみると、「消費」割合は30代、50代がそれぞれ42.9%と高い割合となった。うち、「買い物」の割合は20代が20.1%、30代が22.1%とそれぞれ20%を超えた一方で、50代は14.7%となった。「貯蓄」割合は20代が46.8%と最も高く、年齢が高くな

るにつれて割合が低下し、50代は38.4%となった。「返済」割合は40代が20.3%と高かった。うち、住宅ローンの割合は40代が11.9%、50代が10.8%とそれぞれ10%以上となった。

(以上、6図参照)

(6図)年代別ボーナスの使途計画



(5) 貯蓄の目的

——「貯蓄していれば安心だから」がトップ、「老後の備え」、「教育」が続く——

貯蓄の目的(複数回答)は、「特に目的はない、貯蓄していれば安心だから」の割合が46.9%で最も高く、以下「老後の備え」が27.7%、「教育」が26.1%などと続いた。

前年同期との比較では「教育」の割合が4.8ポイント低下し、2位と3位が入れ替わった。また、4位の「旅行」は19.7%となり、順位は同じであったものの、3.9ポイント低下した。

男女別に見ると、男性の上位3位は全体と同じ順位となり、割合もほぼ同じとなった

が、「住宅」の割合が高く、「旅行」の割合は低かった。一方、女性は「旅行」が3位、「教育」は4位となった。また、「住宅」は男性よりも5.9ポイント低かった。

独身・既婚別では、独身者はトップが「特に～安心だから」で61.1%と既婚者に比べ22.4ポイント高く、次いで「旅行」、「結婚」と続いた。一方、既婚者は「教育」が39.4%とトップとなり、「特に～安心だから」、「老後の備え」の順となった。

(以上、2表参照)

(2表)貯蓄の目的

(単位:%)

	男	性女	性	独	身	既	婚	23年冬計	22年冬計	21年冬計
住 宅	14.5	8.6		6.4		15.0		11.8	15.6	13.4
教 育	(3) 27.0	25.1		3.4	(1)	39.4	(3)	26.1	(2) 30.9	(2) 29.0
結 婚	7.8	9.3	(3)	21.8		0.7		8.5	9.2	8.0
旅 行	13.7	(3) 26.8	(2)	25.6		16.2		19.7	23.6	18.1
耐久性消費財	10.8	10.3		7.7		12.2		10.6	11.6	15.0
病気の備え	8.7	10.3		8.1		10.2		9.4	16.3	12.9
老後の備え	(2) 27.3	(2) 27.8		17.5	(3)	33.7	(2)	27.7	(3) 29.5	(3) 25.7
安心だから	(1) 46.8	(1) 46.7	(1)	61.1	(2)	38.7	(1)	46.9	(1) 48.4	(1) 49.4

2. 最近の暮らし向き調査

——「良くなった」とする割合は3.9%、依然として低い水準——

まず、「今年の今頃に比べて最近の暮らし向きはいかがですか」との問いに対しては、「良くなった」との回答は3.9%となり23年夏と同じ水準であった。一方、「悪くなった」は3.1ポイント減少の27.2%、「変わらない」は3.1ポイント増加の68.9%となった。この結果、「現在の暮らし向き指数」(3表、注記参照)は38.4と、23年夏に比べ1.6ポイント上昇した。しかしながら、「良くなった」とする割合は依然として低い水準にあり、全体としては暮らし向きの厳しさが続いている様子

がうかがわれた。

属性別に見ると、「良くなった」とする割合は20代で8.9%、独身で7.5%と若年層で比較的高かったものの、40代、50代では2%未満にとどまった。一方、「悪くなった」とする割合は、20代が11.4%、独身が18.8%と低かったものの、年代が進むにつれて高い割合となり、50代では44.4%となった。また、「変わらない」とする割合は50代を除いて各属性とも60%を超えた。

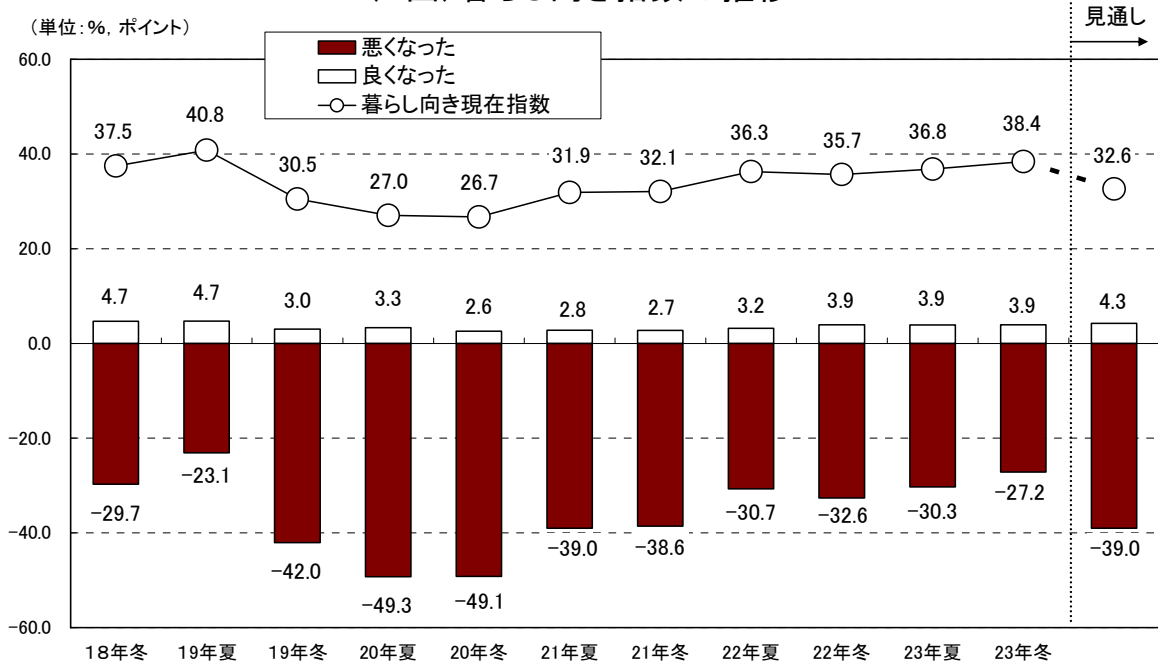
次に「1年後の暮らし向きはどうなると考

えですか」との問いに対しては、「良くなる」の割合は4.3%と幾分上昇するものの、「悪くなる」が11.8ポイント増加の39.0%となり、「変わらない」が56.7%となった。この結果、「今後の暮らし向き指数」は「現在の暮らし

向き指数」を5.8ポイント下回る32.6となり、先行きの暮らし向きについては厳しさが増すものと予想される。

(以上、7図、3表参照)

(7図) 暮らし向き指数の推移



(3表) 現在の暮らし向きについての見方(属性)

(単位: %, ポイント)

属性	現在 → 今後		現在 → 今後		現在 → 今後		現在 → 今後	
	良くなった	良くなる	変わらない	変わらない	悪くなった	悪くなる	現在指数	今後指数
男性	3.1	3.7	69.1	59.5	27.8	36.8	37.6	33.5
女性	4.8	4.8	68.6	53.9	26.5	41.3	39.1	31.8
独身	7.5	6.5	73.8	64.9	18.8	28.6	44.4	39.0
既婚	2.0	3.0	66.3	52.3	31.7	44.7	35.2	29.2
民間	3.9	4.3	70.3	59.1	25.8	36.5	39.0	33.9
公務員	4.1	4.1	64.4	49.1	31.5	46.8	36.3	28.6
20代	8.9	9.3	79.7	65.7	11.4	25.0	48.8	42.2
30代	4.2	4.9	74.1	60.2	21.7	35.0	41.3	35.0
40代	1.7	0.9	62.8	52.8	35.5	46.3	33.1	27.3
50代	0.6	1.8	55.0	45.0	44.4	53.2	28.1	24.3
全体	3.9	4.3	68.9	56.7	27.2	39.0	38.4	32.6

注) 現在指数 = 「良くなった」×1.0 + 「変わらない」×0.5 + 「悪くなった」×0.0

今後指数 = 「良くなる」×1.0 + 「変わらない」×0.5 + 「悪くなる」×0.0

3. 県内給与所得者の小遣いについて

——40代の小遣い状況の厳しさがうかがわれる——

ボーナス調査に併せて、給与所得者の小遣いについても調査した。全体では毎月の平均小遣い額は約3万4,500円、ボーナス時は約5万2,300円となった。これを男女別に見ると、男性は毎月の平均額が約3万8,500円、ボーナス時は約5万3,900円、女性は毎月が約3万300円、ボーナス時が約5万600円となった。

次に年代別に小遣いの額を見ると、毎月の小遣いをもっとも多いのは20代の約3万8,200円、逆に最も少ないのは40代の約2万9,800円、ボーナス時では最も多いのが20代の約5万7,400円、最も少ない

のは40代の約4万4,200円となり、働き盛りである40代の小遣い状況の厳しさがうかがわれた。

男女別、年代別にみると、全体に男性の小遣いが女性を上回っているが、ボーナス時の20代では女性が上回った。最も小遣いが多かったのは、毎月では20代男性の4万70円、ボーナス時では20代女性の5万9,620円であった。一方、それぞれ最も少なかったのは40代女性で毎月が2万3,889円、ボーナス時が3万6,023円であった。

(以上、4表参照)

(4表)小遣いの額

(単位:円)

	男性		女性		総計	
	毎月	ボーナス時	毎月	ボーナス時	毎月	ボーナス時
20代	40,070	54,525	36,655	59,620	38,234	57,400
30代	39,149	55,934	30,720	53,354	35,309	54,735
40代	35,202	51,831	23,889	36,023	29,817	44,215
50代	40,000	52,414	29,667	51,667	35,200	52,100
年代計	38,480	53,865	30,312	50,648	34,548	52,301

4. この冬の御歳暮事情について

——予定あり29.1%、贈答先数4.9先、平均金額4,490円——

この冬、御歳暮を贈る予定については、全体の29.1%が「予定あり」としている。

属性別にみると、独身・既婚別では、既婚者の38.3%が「予定あり」としているのに対して、独身者は12.1%にとどまった。また、「予定あり」を年代別にみると、20代の割合が6.8%と1割を下回っているが、年代が進むにつれて大幅に増加しており、50代では56.5%となった。

次に「予定あり」の回答者に贈答先数と1先当たりの平均金額を尋ねたところ、平均

先数は4.9先、1先当たりの平均金額は4,490円となり、御歳暮予算合計額は約2万411円となった。昨年冬の調査と比べると、贈答先数(昨年冬5.3先)が0.4先減少、平均金額(同4,802円)が312円減少、予算額(同2万4,780円)が4,369円減少となった。

属性別にみると、独身・既婚別では、先数は既婚者が上回ったものの、平均金額は独身者が上回った。また、年代別では、50代は先数、平均金額、予算額ともに最も多

かった。一方、40代はそれぞれ最も低い金額となり、小遣い同様、御歳暮事情においても厳しさがうかがわれた。
 (以上、5表、6表参照)

(5表)御歳暮の予定

(単位:%)

	予定あり	予定なし
独身	12.1	87.9
既婚	38.3	61.7
20代	6.8	93.2
30代	20.4	79.6
40代	40.3	59.7
50代	56.5	43.5
全体	29.1	70.9

(6表)御歳暮の先数と予算

(単位:先、円)

	贈答先数	平均金額	御歳暮予算
独身	3.8	4,684	16,816
既婚	5.1	4,457	21,034
20代	4.4	3,786	17,571
30代	4.1	4,417	16,625
40代	3.9	4,390	16,374
50代	6.4	4,745	27,304
全体	4.9	4,490	20,411

(注)回答項目をそれぞれ単純平均

調査要領

- 調査項目
 - 1. 平成23年冬のボーナス調査
 - 2. 最近の暮らし向き調査
 - 3. 県内給与所得者の小遣いについて
 - 4. この冬の御歳暮事情
- 調査対象者

県内在住の男女給与所得者
- 調査時期

平成23年11月中旬～下旬
- 配布・回収枚数

配布枚数 1,000枚
 回収枚数 916枚 (回収率91.6%)
- 回答者内訳

(単位:人、歳)

属性	男性	女性	合計
20代	91 (26.4)	114 (25.2)	205 (25.7)
30代	161 (35.1)	148 (34.4)	309 (34.8)
40代	115 (43.4)	116 (43.9)	231 (43.7)
50代	91 (55.2)	80 (54.0)	171 (54.6)
独身	137 (32.5)	185 (31.8)	322 (32.1)
既婚	321 (42.4)	273 (42.1)	594 (42.3)
民間企業	336 (38.2)	360 (37.6)	696 (37.9)
公務員	122 (42.8)	98 (39.4)	220 (41.3)
合計	458 (39.4)	458 (38.0)	916 (38.7)

注:()内は平均年齢

【 本件に関する照会先 】

一般財団法人 青森地域社会研究所
 担当 野里和廣
 TEL 017-777-1511